

食品健康影響評価のとりまとめに向けた方向性（案）

（牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し（SRM の範囲）に係る食品健康影響評価）

これまでのプリオン評価書も踏まえ、評価の 4 つのステップに基づき以下のような構成で記載を進めてはいかかがか。

- 「Ⅱ. 評価の考え方」(P13～)に基づき、①評価の前提となる国内における BSE リスク管理措置の実施状況、②現在、SRM に設定されている部位を含めた PrP^{Sc} の分布に関する感染実験等に係る知見を整理した上でハザードを特定し、これらを踏まえて人への健康影響について検討し、総合的なリスクの判定を行ったことへの言及。
- 以下、各パートについて主に本文から引用の上、記載内容を検討。

1. ハザードの特定結果*に関するまとめ（ハザードの特定結果から引用）(P53)

- ① BSE リスク管理措置の実施状況のまとめ
- ② PrP^{Sc} の蓄積分布に関する知見のまとめ

*ハザードは非定型 BSE 感染牛に由来する 30 か月齢超の脊柱（DRG）に蓄積する PrP^{Sc}

2. 評価に係る知見の概要（ハザードの特性評価）に関するまとめ

- 牛の非定型 BSE の疫学情報
- 脊柱（DRG）の感染性（感染価）に関する知見
- 非定型 BSE の人への感染性（実験動物を用いた感染実験、牛と人との間の種間バリア）
- 用量反応

3. ばく露状況に関するまとめ（Ⅳ. の 4. まとめから引用）(P67～)

4. 上記内容を踏まえた諮問事項（SRM 範囲の変更に伴うリスクの比較）に係るリスク

非定型 BSE 感染牛が発生し、何の手立ても取られなかった場合に、フードチェーンに混入する当該感染牛に由来する DRG に含まれる PrP^{Sc} により、人が vCJD を含むプリオン病を発症する可能性。

- 食品を介したハザードの摂取による人への健康影響について検討（評価結果）